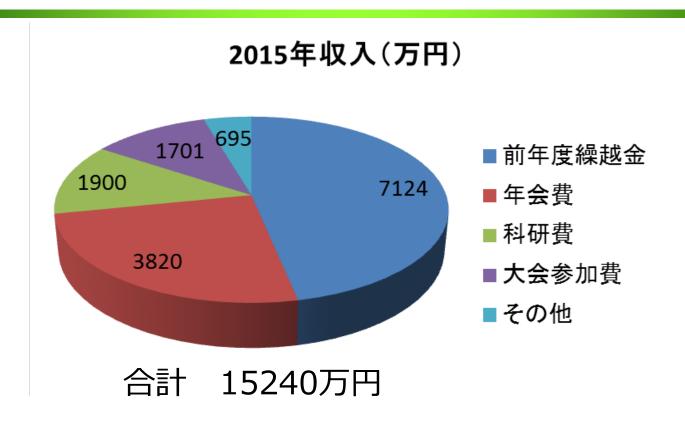
改革による財政的問題点と展望

(研)農業環境技術研究所 (会計担当業務執行理事) 池田浩明

あらすじ

- 日本生態学会における財政の特徴
 - 収入、支出、そして収支
 - 学会財政が抱える問題点
- 学会業務の委託が財政に及ぼす影響
 - 学会財政のシナリオ分析
- ・ 今後の学会財政のあり方
 - 学会が取り得る選択肢

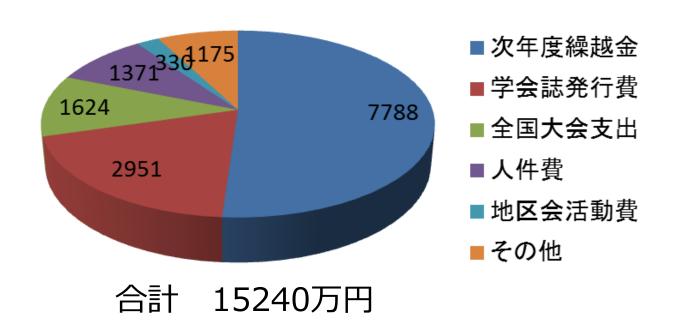
学会財政の特徴:収入



- ・繰越金が一番多い
- 年会費>科研費>大会参加費

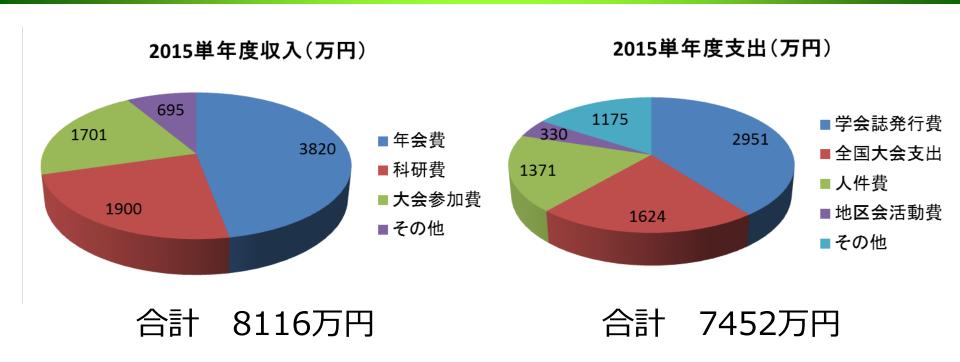
支出

2015年支出(万円)



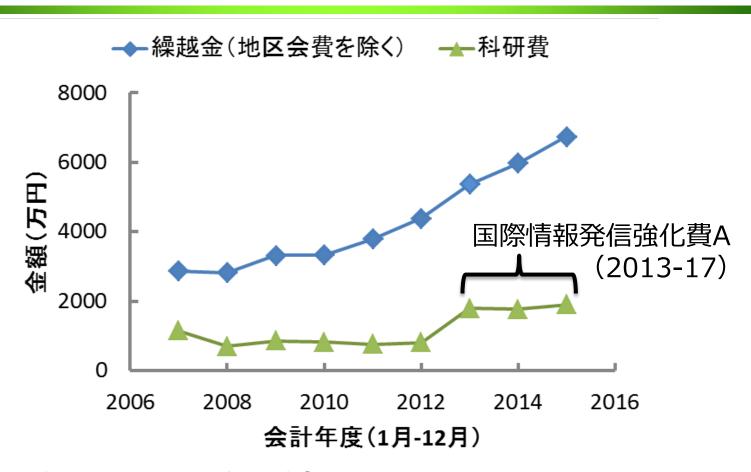
- ・ 繰越金が一番多い・・・合計額の半分!
- 学会誌発行>全国大会>人件費

単年度収支



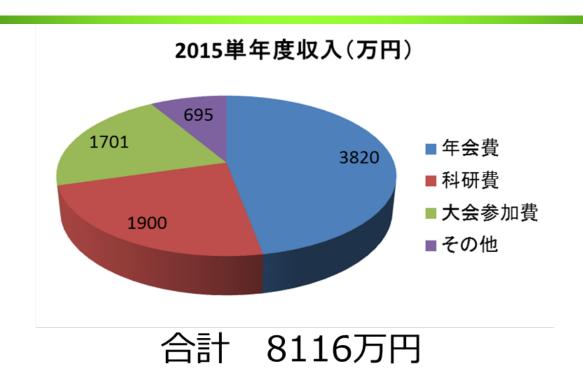
- 単年度収支:8116万円-7452万円=664万円
- ・ 664万円黒字 → 繰越金の増加

繰越金の推移



- 繰越金は毎年増え続けている
- 会員による献身的なボランティア活動の帰結

学会財政が抱える問題点



- ・ 科研費が単年度収入のおよそ25%を占める
- 科研費は競争的資金であるため、継続性が保証されない••・脆弱な財政基盤

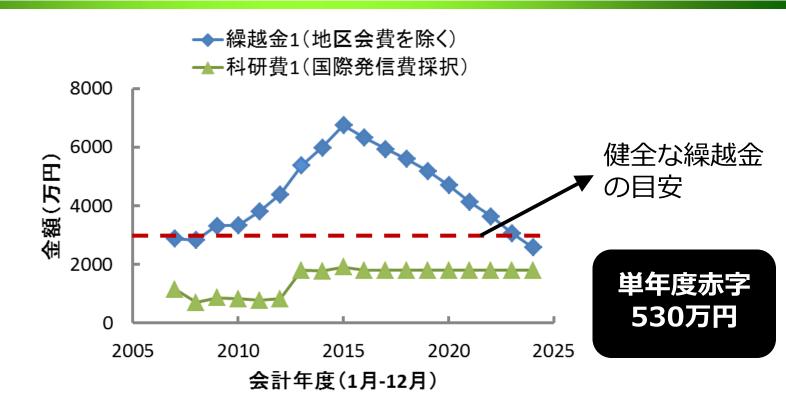
業務委託が学会財政に及ぼす影響

国際文献社への業務委託費(万円)

業務内容	初期費	経常費
会員管理	226	413
大会関係	138	610
WEB選挙システム	69	12
合計	433	1034

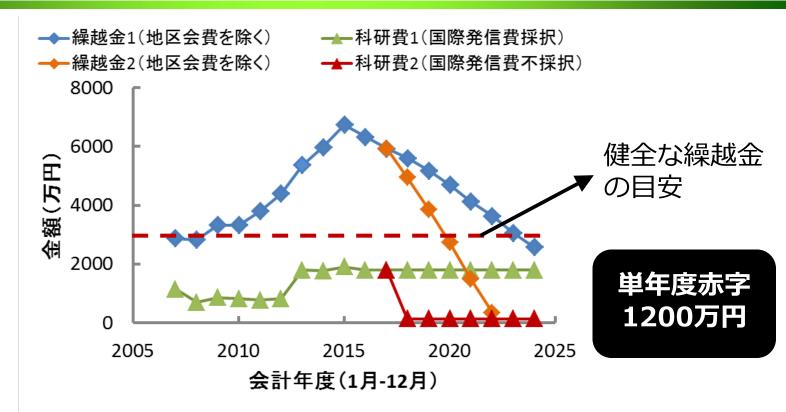
- 单年度収支:7724万円-8255万円=-531万円
- 664万円黒字財政 → 531万円赤字財政

繰越金の長期予測: 収入構造が変わらない場合



• 科研費などの収入が変わらなければ、2023年 まで単年度赤字を放置してもOK

繰越金の長期予測: 国際情報発信費が不採択の場合



- ・ 国際情報発信費(2018-22年)が不採択の場合、2020年に「健全な繰越金の目安」を下回る
- ・ 2019年度予算(札幌大会決議)で対策を導入

財政改革の選択肢:支出の削減

冊子体廃止による支出の削減

	 削減目標額		
雑誌名			
	(万円)	(万円)	
Ecological Research		300	
日本生態学会誌		150	
ニュースレター		50	
合計	1200	500	

[※]保全誌は冊子体購読者が多数なので試算から除外

- ・ 学会誌の冊子体を廃止すれば500万円削減
- ・530万円の赤字補てんは冊子体廃止策で可能
- 1200万円の赤字補てんには700万円不足

財政改革の選択肢:収入の増加

年会費、	大会参加費の増額による社	甫てん(ឫ	見在の会員数、	参加者数による試算)
費目	目標補てん額	目標増額	質 会員種別	会費・参加費の
	(万円)	(%)	云 貝俚別	変化(円)
年会費	1200	25	一般	13000 → 16200
			学生	$10000 \rightarrow 12500$

70

一般(早期)

学生(早期)

 $10000 \rightarrow 17000$

 $6000 \rightarrow 10000$

- 1200万円の赤字を収入増で補てんする場合
 - 年会費のみでは25%の値上げが必要

1200

大会参加費

- 大会参加費のみでは70%の値上げが必要

財政改革の選択肢:収入の増加(2)

学生会員の値上げを据え置きした場合:

年会費、大会参加費の増額による補てん(現在の会員数、参加者数による試算)

費目	目標補てん額	目標増額	会員種別	会費・参加費の
	(万円)	(%)		変化(円)
年会費	1200	30	一般	13000 → 17000
			学生	$10000 \rightarrow 10000$
大会参加費	1200	100	一般(早期)	10000 → 20000
			学生(早期)	$6000 \rightarrow 6000$

- 1200万円の赤字を一般会員の収入増で補てんする場合
 - 年会費のみでは30%の値上げが必要
 - 大会参加費のみでは100%の値上げが必要

今後の予定

- 会員向けアンケート調査の実施
 - Questantによるオンライン・アンケート
 - 2016年4月~5月実施



アンケート結果を受けた財政改革案を作成し、 東京大会総会で提案→意見交換



- 財政改革案を札幌大会総会で決議→導入
 - 国際情報発信強化費の採択額(札幌大会直後に 判明)に応じた財政改革を実施